

学校・家庭・地域社会・自治体の協働学習支援ネットワークの構築 ～総合的な学習の時間の支援を目指した授業のモデル化と協働学習支援ネットワーク～

発表者：長野市教育委員会 学校教育課課長補佐 押見 善一 <oshimi@lilac.plala.or.jp>
長野市立若穂中学校 3 学年 社会科 教諭 小山 茂喜 <jhkoyama@city.nagano.nagano.jp>
長野市立柳町中学校 3 学年 社会科 教諭 河手 正彦 <jhkawate@city.nagano.nagano.jp>
キーワード 協働学習，総合的な学習の時間，中学校，インターネット，地域との連携

1. テーマのねらい

- ・学校・家庭・地域社会・自治体が協働して児童・生徒の総合的な学習の時間における学習を支援する「協働学習支援ネットワーク」のモデル化を図る
- ・総合的な学習の時間における児童・生徒の協働学習や交流学习を支援する環境を構築する

2. 実践内容

2.1 協働学習支援システムの開発

- ・「テーマの設定」「学習計画」「実体験・調査」「学習のまとめ」「成果の発信」「交流」という学習の流れを支援する「協働学習支援システム」を開発
- ・学校・家庭・地域社会・自治体が協働して児童・生徒の総合的な学習の時間における学習を支援するしくみの整備・構築

2.2 授業実践内容（長野市立若穂中学校，柳町中学校の2校）

2.2.1 若穂中学校の実践内容

1) 学校の取り組み

「総合的な学習の時間」で，生徒が地域と密接に関わりながら，地域を見直すふさと学習を実践。ふだん何気なく過ごしている自分達のふさとを見直し，地域の人々とともに学習を展開する中で，表現力や生きる力を育成しようと考えている。



2) 今回の授業実践

a. テーマ名：「樹木の大气浄化能力の測定」

- ・ねらい：環境庁実施の「樹木の大气浄化能力の測定」調査に参加することを通して，身近にある樹木と大气との関わりについての理解を深めるとともに，環境問題に対する関心を深めさせる。
- ・学習の展開：大气浄化能力測定法の実技研修 校内・自宅周辺等の樹木調査 「ふるさと学習データベース」による調査結果の公開 環境庁からの認定証交付 教育ボランティアによる評価 学習のまとめ
- ・学習支援者の活動：長野市環境部技官・環境指導員・長野保健所技官による測定に関する技術指導と評価。環境に詳しい地域の方により地域の情報提供と評価。新聞記者と放送記者の方にジャーナリストの立場から助言と評価をいただいた。



b. テーマ名「福祉マップづくり」

- ・ねらい：車椅子体験による福祉マップをつくる活動を通して，福祉問題に対する関心を高めるとともに，住みやすい町づくりについて具体的な提案を考える。
- ・学習の展開：福祉マップに関するオリエンテーリング 学区内での車椅子体験と調査 福祉マップ作り 「ふるさと学習データベース」による学習成果の公開 教育ボランティアによる評価 学習のまとめ
- ・学習支援者の活動：障害者自立支援センター職員によるオリエンテーリングとボランティアによる調査活動の支援と評価。新聞記者と放送記者の方にジャーナリストの立場から助言と評価をいただいた。

c. まとめ

- ・調査結果を公開することで，社会貢献することができ，生徒の学習意欲を高めることができた。
- ・支援者も時間と場所を気にせず，生徒たちの学習に関わることができ，効率的な学習が展開できた。
- ・評価方法や地図データベースの充実を今後図りたい

E スクエア・プロジェクト成果発表会

2.2.2 柳町中学校の実践内容

1) 学校の取り組み

生徒の発達段階を考慮し、学年毎に教科を越えるより広い実社会的なテーマを決め、「総合的な学習の時間」を「ふるさと長野学習」として設定した。各テーマに沿って学年内の課題別によるクラスで個人やグループによる追究を行ったり、体験したりすることで、よりよく問題を解決する資質や能力を育成したいと考え、「ふるさと長野学習」を実践している。



2) 今回の授業実践

a. 題材名：伝統文化とともに生きる（2 学年後期）

- ・ねらい：伝統文化とともに生きている地域の人々の生き方に触れることを通して設定した学習課題について、文献・現地調査・インターネットなどをもとに追究し、まとめ、発信することで、地域に対する理解を深め、自分の価値観を広げることができる。
- ・学習の展開：データベース検索やフィールドワークから善光寺に関する各自の課題を設定し、現地調査・文献・インターネットなどにより追究する。追究結果を「ふるさと学習データベース」へ登録する。生徒が登録した内容に対して、学習支援者（学校ボランティアなど）が助言等を入力する。「ふるさと学習データベース」により生徒間の意見交流を行う。各自追究した結果を放課後等を活用して追加入力し、版数の更新を行う。
- ・学習支援者の活動：前年度の善光寺に関する学習内容を、課題設定の参考にするため、「ふるさと学習データベース」への登録を行った。学校のパソコン教室において、生徒が登録した内容に2度にわたり助言・意見等の入力を行った。



b. まとめ

- ・学習支援者からのコメントについて生徒からは、「良かった」「うれしかった」「詳しく調べておけば良かった」「コメントについてよく調べてみたいと思った」などの感想が多いことから、先生以外の支援者からのコメントは、生徒の追究意欲を高め、追究の質を向上させることにつながったと考えられる。
- ・授業時間内に多くの生徒が級友のデータベースを閲覧し、「よくまとまっているね。がんばったね。」等のコメントを書き込んでいることから、「ふるさと長野データベース」を活用して追究のまとめをさせたことは、生徒間の相互評価を意欲的に行わせることに有効であったと言える。
- ・支援者の入力時間などの都合上、コメントが入力されていなかった生徒についても、今後インターネットの環境を利用して助言・意見等を入力していくなどフォローを行う。

3. 授業実践結果

ふるさと学習データベースを中心とした協働学習支援システムを利用することにより、

- 1)ふるさと学習データベースを活用して、地域の学習支援者や行政機関との協働学習が実施できた。
- 2)自らが主体的に学んだことを、ネットワーク上に発表し、同世代の仲間や地域の専門家との意見交流が可能となり、追究意欲が高まり、追究の質が向上した。
- 3)支援者も時間と場所を気にせずに生徒達の学習に係わることができ効率的な学習が展開できた。
- 4)実践校だけでなく、他の学校でも利用され、協働学習支援ツールとしてのニーズとこれに対する期待の大きさが確認された。システムの利用は当初中学生を対象としたが、小学生でも実践し、使えることが分かった。

4. まとめ

今回開発した「協働学習支援ネットワークシステム（ふるさと学習データベース）」を利用した情報発信及び学習支援者との意見交流は、生徒たちの学習意欲を高め、また、このようなシステムは生徒間や、学校と教育ボランティアなどの学習支援者を有機的に連携するしくみとして有効であることが実践を通してわかってきた。

今後は、「ふるさと学習データベースシステム」のビジュアル化、支援者や生徒間における対話形式のページ設定など学習課題に合わせた多様な機能追加・改善提案が出てきているので、システムの改善を図りたい。また、システムの利用については、中学生を対象としていたが、対象を拡大し、小学生の学習に配慮した機能拡張を行い、参加者の増加に伴うシステム機能改善を図っていきたい。

「協働学習支援ネットワークシステム」を利用した学校・家庭・地域社会・自治体の協働学習は、市内全校を対象として拡大するとともに、学校間や地域間の交流学習へと展開させ、長野市教育大綱に掲げた「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」をめざしたい。